



■つながりがない、つながりを持ってない

近年、一人暮らしの高齢者の孤立死・独居死が、大きな社会問題となっています。2009年の北九州市における65歳以上の孤立死・独居死は、約240件^①に上りました。また、北九州市の人口に占める65歳以上の人の割合を示す高齢化率は24.7%^②と高く（全国平均＝23.1%^③）、さらに高齢で単身の世帯数は2005年に約45,000世帯を数え、20年前の約3倍に急増し、全世帯に占めるその割合も全国に比べ高い水準にあります（グラフI参照）。

世帯の単身化は高齢者だけに限りません。かつては三世代で住む家庭が当たり前でしたが、都市化・核家族化が進み、さらに今では核家族そのものが分散し、単身世帯が増加しているのです（グラフII参照）。人々が家族や地域、社会などとのつながりを失い、孤立化していくという問題が私たちの身近にあるのです。

また、ホームレスや引きこもり、さらに社会とつながりがないために生じることもある児童虐待の問題なども「社会からの孤立」という観点から問題を見つめる必要があります。

■予断と偏見を捨て、人に思いを巡らす想像力を

私たちは他人のプライバシーに関わるとわずらわしいことが起きるのではないかと考え、見て見ぬ振りをしたり、人を遠ざけたり、自ら遠ざかったりすることはないでしょうか。それだけでなく、例えば、認知症の高齢者、不況の中でリストラされ仕事も家庭も失ったホームレスの人、日本に働きに来ている外国人、障害のある人などに対して、何か面倒や問題を起こしそうだという予断や偏見を持ってはいないでしょうか。

「大丈夫だった？ あの人。よくは知らないんだけどね…なんかアブナイ感じ？ っていうか」

亜紀の隣人・紀子は、当初、波岡をこのように見ていました。うわさなどを信じ、よく理解しないうちにその人を外見や行動だけで判断し、付き合いを避け、地域から遠ざけてしまう…。こうした社会からの排除によって人は傷つき、時として命の危険にさらされることがあります。

本人が心を閉ざして、人とつながろうと思わなければ、その人のことを知るすべはありません。それでも予断や偏見をもって決め付けるのではなく、その人のことに思いを巡らすことがいい人間関係を築こうと行動する最初の一歩になるのではないのでしょうか。

- ① ここでの数は、福岡県警が発表した独居で65歳以上の亡くなった方の数であり、全ての方が誰にもみとられず亡くなった訳ではありません。また、病死だけでなく、自殺や自己過失なども含まれます。
- ② 住民基本台帳人口要覧（2010年3月31日現在）
- ③ 総務省人口統計局人口推計（2011年1月1日現在）



映画のシーン

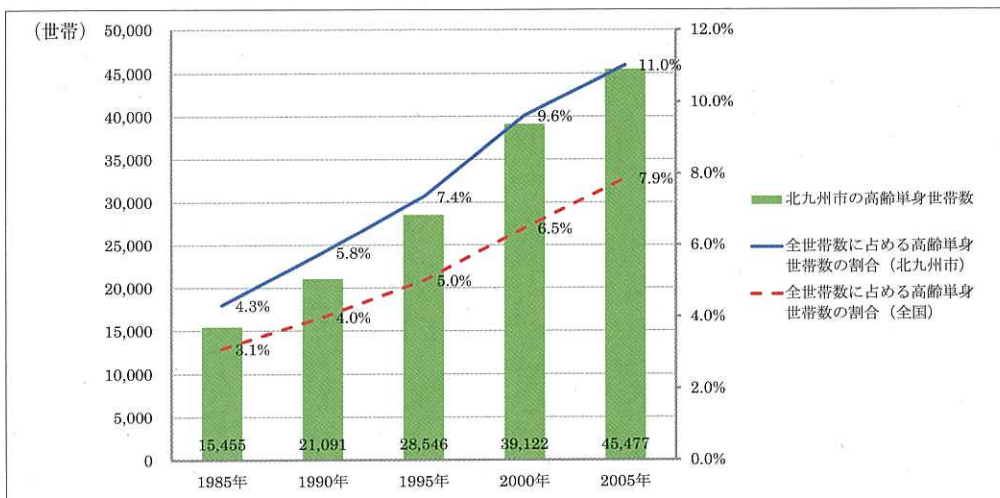


邦子 「地域の行事やなんかで声を掛けようとしてもドアも開けてくれない人、結構いるの。近所付き合いなんて必要ない、誰とも関わり合いたくないって人」

亜紀 「一人って…さみしいのね。もし、まこが急に死んじゃったら、あたしは一人？ 波岡さん、毎日こんな気持ち？ 知ってる？ 一人ってね、さみしくて、怖いんだよ」

グラフ I

北九州市の高齢単身世帯数と全世帯数に占めるその割合

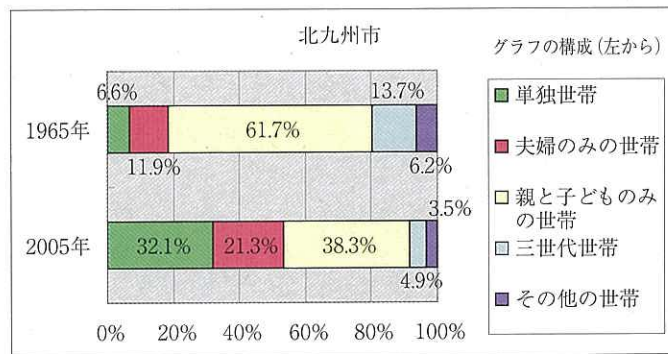
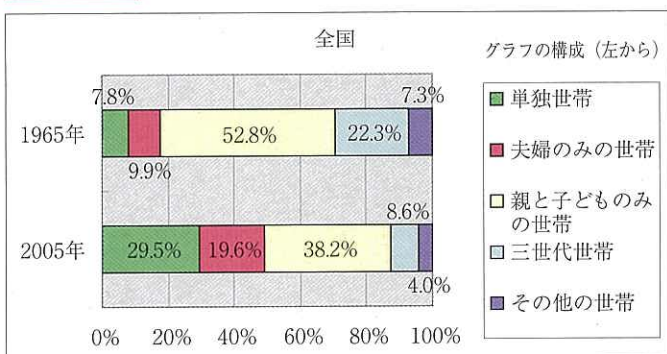


(資料) 国勢調査

グラフ II

世帯構造別にみた世帯数の構成割合

(資料) 国勢調査



映画のシーン



紀子 「大丈夫だった？ あの人…よくは知らないんだけどね、時々この辺りをフラフラ歩いてて…なんかアブナイ感じ？っていうか」

亜紀 「なんかあったの？」

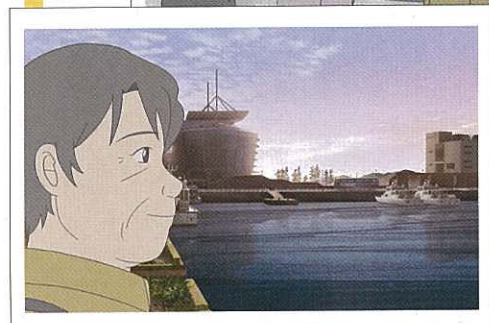
紀子 「それはないんだけど。見れば分かるじゃない。うち子どもがいるから心配なのよ」

紗奈 「あのおじさん、怖い人なの？」

紀子 「そういう訳じゃないんだけど。でもあまり仲良くしない方がいいかなあ」



波岡 「…みんな汚いもん見みたいにして俺のことを避けやがって。『ちくしょう！ 俺だって人間なんだ。そんな目で見ろな』って言いたくて」



邦子 「…今で言う発達障害があって、なかなか周りからも理解してもらえなくて。問題を起こすたびに私は先生や他の保護者に頭を下げて回って。そんな生活に疲れて、いっそ息子と心中しようかと…」